学校番号	T3011

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校数学Ⅰ　新訂版（実教出版）						
副教材等	教員作成教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

週に２回の授業です。理解するためには授業以外での学習も必要です。
まずは、自分の中の「わからない」を見つけましょう。説明文や式変形の、どこがわからなくなったのかをはっきりさせましょう。そうして見つけた「わからない」を「わかる」に変えるには、説明を繰り返し聞いたり方法を真似してみたりしながら、時間をかけて考える必要があります。授業のなかでしっかり考える時間を大切にしましょう。わかったと感じたときは、繰り返し練習問題を解くなどして、「わかる」を「できる」に変えましょう。課題提出を定期的に要求します。授業時間外の学習でも、何がわからないかをはっきりさせながら課題に取り組むようにしましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数と式、図形と計量についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量についての基本的な概念や原理・法則を理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	数や式を目的に応じて適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。	自ら考える姿勢を持ち、粘り強く考え、数学的に考察しようとしている。 自分の学習態度を振り返り、改善しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	整式	・文字式のきまり ・整式の計算 ・展開(乗法公式) ・因数分解 （乗法公式・たすき掛け）	a:単項式や多項式、乗法公式、因数分解の公式について理解し、公式を利用して計算を処理する力が身に付いている。 b:特定の文字に着目したり式を 1 つの文字に置き換えたりして、式を多面的に捉えることが出来る。 c:中学校で学んだことをふり返りながら、整式やその計算についての理解を深めようとしている。	プリント 小テスト 定期考査 など	プリント 授業観察 など	プリント 発問への反応 Google フォーム提出 など
	実数	・平方根 （四則計算・有理化） ・小数と分数 ・無理数	a:平方根の意味を理解し、平方根を含む式の四則計算や有理化を行う技能を身に付けている。 b:数を拡張してきた家庭や数の四則計算の可能性について考察することが出来る。 c: 数の体系を実数まで拡張する意義について考えようとし、数を拡張していく過程を調べようとしている。			
	方程式と不等式	・文章からの立式 ・1 次方程式 ・不等式の性質 ・1 次不等式 ・不等式の利用	a:不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1 次不等式や連立不等式を解く技能を身に付けている。 b:日常の事象を数学的に捉え、1 次不等式を活用して問題を考察、解決し、その過程を表現することが出来る。 c: 数量関係を不等式で表すことの良さを理解しようとしている。			
後期	三角比	・三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係	a:サイン・コサイン・タンジェントの意味を理解し、直角三角形の三角比の値を求める技能を身に付けている。 b:日常の事象について、三角比を利用して高さや教理が求められることを考察出来る。 c: 校舎の高さや 2 地点の標高差・水平差について三角比を用いて調べようとしている。			

	三角比の応用	・三角比の拡張 ・三角形の面積 ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の利用	a:三角比を鈍角まで拡張することの意義を理解し、正弦定理や余弦定理を利用して角度や辺の長さを求める技能が身に付いている。 b:正弦定理や余弦定理を導く過程を考察し、日常の事象についても正弦定理や余弦定理を利用して高さや距離が求められることを考察、表現することが出来る。 c: これまでの三角形の面積の公式をふり返りながら、三角比を利用した面積の公式を考えようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度